

俳句文学館

発行所
社団法人
俳人協会
東京都新宿区
百人町3-28-10
郵便番号160
電話(03)367-6621
代
発行人 草間時彦
定価 100円(送料別)
(年1,000円送料
300円)
振替口座東京
6-273番

第17回俳人協会賞 第1回俳人協会賞新人賞

下村ひろし 鍵和田柚子

西陣集 未来図



本選会で意見をかわす委員の諸先生

賞 両決まる

第十七回俳人協会賞は去る十一月五日の予選会について、十二月三日午後一時より選考委員を主催、水原秋桜子以下十四名の委員が出席、予選通過の新人賞候補作品三編、本賞候補作品三編を対象に別項のように熱心に討議を行ない、協会賞に下村ひろし「西陣集」、新人賞に鍵和田柚子「未来図」を決定した。本年から新人賞が制定されたために、協会賞、新人賞の性格そのものについての議論もあり、充実した選考経過だった。また、本年は刊行された句集、つまり選考対象作品が一八〇編を越すという多数のことであり、その選考の方法が従来と同じでよいのかどうかとの疑問も一部の委員から提出されていた。協会賞、新人賞の授与式は五十三年二月二十日の俳人協会総会に引き続き、東京・浜松町貿易センタービル三十九階エリールームで行われる。賞品は両賞ともに、時計、副賞として金五万円が贈られる。

受賞作品抄

下村ひろし
大より荒き少年の息冬すみれ
音ほども見えぬ雨脚難節る
芋の露山のむかうは知らず老ゆ

鍵和田 柚子



本選会で意見をかわす委員の諸先生

受賞者略歴

下村ひろし(しもむらひろし)
明治三十七年長崎市生まれ。医師。下村桐院院長。「馬酔木」同人。「椋」主宰。句集に、受賞作のほか「石階母屋」あり。

住所 長崎市古川町八一(二面一戸)に紹介
鍵和田柚子(かぎわたゆづり)
住所 長崎市古川町八一(二面一戸)に紹介

新人賞決定

最初の投票は三名連記で決まり、まず投票を行った。その結果、(六票)久保田博(四票)鍵和田柚子・菊川芳秋・高村圭左衛門・和田祥子(二票)宮岡計次・山口通・柳下良尾(以下略)となった。この結果について、四票以上の五名が話し合いの数を以て適当と提案され、ともに異議はなく五名について話し合いに入ることとなった。まず五つの句集のそれぞれにつき、よく推薦する委員より作者の紹介および推薦理由が述べられ、ついで自由に発言が交わされた。発言の二、三を示せば以下のようになる。

本選会経過報告

本選会は、水原秋桜子・大野林火・安住敦・千代田昌彦・岸藤三樹・加藤井秋・吉岡隆平・平畑静塔・福田欣一・草間時彦・香西照雄・沢次欣一・有村登四郎・鷹羽狩行(以下略)の選考委員の出席を得て、十二月三日午後一時より開かれた。午後一時三十分より開かれた。冒頭、選考順序・選考方法についての打ち合わせがあり、大野林火議長を議長として、以下の通り進行した。

柔軟で、若々しい作風

下村氏への評価
もの性格の論議をふくめて、やはり票数上位四票以上の八名を候補として話し合おうということになった。井沢正江「晩鐘」
心境的に澄んだ厚味のある、人間的な俳句の風格をたたえている句風である。従来の常套的な写生を超えて書かれています。

書初

水原 秋桜子
書初の硯ときめて愛しけり
書初や古梅園墨香の古りて
書初や墨床に彫る玉椿
大寿春
富安 風生
双肩の荷によろめきて恵方道
元日の午後の光陰敷の穂に
読初や文庫本にて二三章

わかりやすく、新味

「未来図」への評価
知性的な作家である。それでいて難解な句は少なく、一読するとわかりやすい句、しかも新味がある。選会でも問題となった協会賞その

春 夏 秋 冬

女流を除いて、現代俳句の系譜「現代女流の系譜」を特集した。「俳句研究」がや熱心かと思つて、だが、角川の「俳句」も昨年、特集した。「エッセイ」後記のように「女流もやっとなつてきたばかり」かもしれないが、総合誌が女流に熱心になるのは、当然である。「俳句研究」「俳句」の年鑑が出た。「俳句」は恒例の総覧型年鑑。阿部完重、飯島晴子、三浦敏雄、高柳重信らが本質的な問題を語り、一語の価値がある。「俳句」も森澄雄、原裕らが、熱く評論を書いている。▲そして、藤田湘子の「俳句のおもしろい」が面白い。萩原朝太郎が三好達治に「前と後の五行を切れば俳句になる」と教えた話だ。その辺から湘子は、「原因を無視して、結果だけを俳句に詠えば、引きつらくなる」と言う。よくわかる。▲後藤比奈夫の「現代俳句老」は、巻頭で読みかたがある。前年同様に、草間時彦が書いた「約束の崩壊」についての記述があった。草間は、いろいろの人が俳句につき、鑑賞、批評するが、季語、切字などの俳句の約束が崩壊することになった。と、真剣に論じたものだ。比奈夫も約束を破って詠うてはならぬ。崩壊はとどめなければと訴えている。▲俳句の約束という、初歩的な問題を、二年も繰り返すことにしている。これは、俳句盛りの問題がある。

謹賀新年

昭和五十三年元旦
社団法人 俳人協会
会長 水原 秋桜子
役員 一同

「俳句」創刊25周年記念出版

現代俳句辞典
「俳句」九月臨時増刊
A5判四八〇頁/定価一〇〇〇円
九月五日発売予定

水原秋桜子全集

講談社版 全二十一巻
定価各巻二、九〇〇円

古く俳諧の世界から、俳人の美意識を解放した
秋桜子の全著作の集大成！
第一回記念本十月十日発売
第九巻 鑑賞一
新修三代俳句鑑賞(春・夏・秋の部)

「未来図」への評価

「未来図」への評価
知性的な作家である。それでいて難解な句は少なく、一読するとわかりやすい句、しかも新味がある。選会でも問題となった協会賞その

本選会経過報告

本選会は、水原秋桜子・大野林火・安住敦・千代田昌彦・岸藤三樹・加藤井秋・吉岡隆平・平畑静塔・福田欣一・草間時彦・香西照雄・沢次欣一・有村登四郎・鷹羽狩行(以下略)の選考委員の出席を得て、十二月三日午後一時より開かれた。午後一時三十分より開かれた。冒頭、選考順序・選考方法についての打ち合わせがあり、大野林火議長を議長として、以下の通り進行した。

柔軟で、若々しい作風

下村氏への評価
もの性格の論議をふくめて、やはり票数上位四票以上の八名を候補として話し合おうということになった。井沢正江「晩鐘」
心境的に澄んだ厚味のある、人間的な俳句の風格をたたえている句風である。従来の常套的な写生を超えて書かれています。

書初

水原 秋桜子
書初の硯ときめて愛しけり
書初や古梅園墨香の古りて
書初や墨床に彫る玉椿
大寿春
富安 風生
双肩の荷によろめきて恵方道
元日の午後の光陰敷の穂に
読初や文庫本にて二三章

「未来図」への評価

「未来図」への評価
知性的な作家である。それでいて難解な句は少なく、一読するとわかりやすい句、しかも新味がある。選会でも問題となった協会賞その

本選会経過報告

本選会は、水原秋桜子・大野林火・安住敦・千代田昌彦・岸藤三樹・加藤井秋・吉岡隆平・平畑静塔・福田欣一・草間時彦・香西照雄・沢次欣一・有村登四郎・鷹羽狩行(以下略)の選考委員の出席を得て、十二月三日午後一時より開かれた。午後一時三十分より開かれた。冒頭、選考順序・選考方法についての打ち合わせがあり、大野林火議長を議長として、以下の通り進行した。

柔軟で、若々しい作風

下村氏への評価
もの性格の論議をふくめて、やはり票数上位四票以上の八名を候補として話し合おうということになった。井沢正江「晩鐘」
心境的に澄んだ厚味のある、人間的な俳句の風格をたたえている句風である。従来の常套的な写生を超えて書かれています。

書初

水原 秋桜子
書初の硯ときめて愛しけり
書初や古梅園墨香の古りて
書初や墨床に彫る玉椿
大寿春
富安 風生
双肩の荷によろめきて恵方道
元日の午後の光陰敷の穂に
読初や文庫本にて二三章

追加収蔵の歳時記

さらに収集にご援助を

本誌第7号(昭和52年7月5日付)に、当館収蔵の歳時記類一覧表を掲載したが、その後、寄贈頂いた分または購入した書目を次に追加分として掲げる。寄贈者の芳名は略して頂くが、今後とも、珍しき歳時記や季節類の収集にご援助をお願いしたい。

安住 敦	東京歳時記	昭44・6・20	読売新聞社
同	俳句鑑賞歳時記	昭48・10・10	明治書院
伊沢元美	俳句鑑賞歳時記	昭35・4・10	弥生書房
磯集所(編)	磯集所(編)	昭38・10・1	磯集所
今井伯浦(編)	新撰歳時記	大12・4・1	博文堂
梅田眞男	食品歳時記	昭51・4・2	食品資料研究
大野林火	春の俳句	昭48・3・3	明治書院
上川井梨葉	俳句季寄せ	昭9・7・20	俳句堂
小林清之助	鳥の歳時記	昭42・4・30	真珠書院
同	動物歳時記	昭45・11・30	角川書店
さぼん俳句会(編)	南国歳時記	昭43・3・10	さぼん俳句会
佐藤勇郎花(編)	青森県歳時記句集	昭39・10・1	海 社
高橋隆生	新京都歳時記	昭51・8・6	光村推古書院
武田文彦	泉の歳時記	昭49・10・10	(著者)
同	寺崎方堂(編)		
鳥越三郎	鳥越三郎		
平川巴竹(編)	平川巴竹(編)		
細見綾子	細見綾子		
堀古藤	堀古藤		
三森松江	三森松江		
皆吉松江(編)	皆吉松江(編)		
宮田茂子(編)	宮田茂子(編)		
村山古郷	村山古郷		
山根梅敬	山根梅敬		
山口雪子	山口雪子		
同	同		
山本健吉	山本健吉		
雪の歳時記	雪の歳時記	昭52・7・1	(著者)
紛らひしき季節	紛らひしき季節	昭28・11・15	無名 庵
歳時記の系譜	歳時記の系譜	昭52・4・30	毎日新聞社
ゆく春歳時記	ゆく春歳時記	昭52・5・7	ゆく春発行所
私の歳時記	私の歳時記	昭50・8・30	牧 羊 社
筆洗歳時記	筆洗歳時記	昭51・11・25	白 鳳 社
俳句季寄せ(下)	俳句季寄せ(下)	昭25・4・8	秋 元 政
電報俳句歳時記(上下)	電報俳句歳時記(上下)	昭42・6・20	大東 出版
ボケット季寄せ	ボケット季寄せ	昭49・9・20	リエーターズ
春らしの歳時記	春らしの歳時記	昭15・5・17	黒田善司郎
俳句季寄せ	俳句季寄せ	昭22・8・15	同 社
わが歳時記	わが歳時記	昭24・3・5	同 社
結わが歳時記	結わが歳時記	昭48・10・5	文芸春秋社



大野委員長

水準の上った「年の花」

今年「季節別年の花句集」を

「年の花」委員長大野 林 火

五十二年の年の花句集を回顧し、その水準が上ったことを喜びたいと存じます。ことに、今までは老人であることを強調し過ぎていたものが多かった。最近の年齢が句の上に自然に出るようになった。このことはいへんな進歩だと思います。また、老人福祉施設

随想

小正月 福田夢汀



元日の午後家をでて鴨沢の林道に入ると時は暮れてしまつた。寒風を浴びる月光に照らされる。寒風を浴びる月光に照らされる。寒風を浴びる月光に照らされる。...

盛岡で8日 札幌で29日 新春の集い

俳句協会委員会は各地で行なわれてきたが、一月には新春の集いとして、盛岡、札幌で行なわれる。盛岡は一月八日、札幌は一月二十九日、詳しくは別掲の第四面広告を参照願いたい。現地の方面の参加をお待ちする。

図書寄贈者を紹介

図書寄贈者芳名

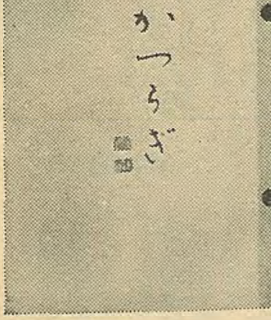
- 前掲後、次の各氏から寄書または蔵書等を寄贈して頂いた。感謝の意を表す。(敬称略)
- 東京 金井孝水 磯田和子
- 協会 堀沢津波 高橋隆生 若林波留美 村石玉恵人 駒形行所
- 口語俳句年刊編集委員会 富山県俳句連盟 京橋村謙 仙台俳句作家懇話会 東京美術 白州堂書店 天狼俳句会 原田種孝 梅田眞男 横村庄一郎 四日市馬酔木会 植原抱芽 三好調子 草間時彦 宮下翠舟 文芸出版社
- 勝本鶴代 足立八洲路 松本樹 中央公論事業出版 有沢雨石 吉田草風 藪野火社 渡辺春輔 京谷圭 瀧川水 山本蒼天 かひれ社 本田眞子 平本くらら 清水芳堂 高沢俊樹 山内大刀 火風俳句会 加藤史朗 進藤一孝 細木世角星 風土俳句会 有働亨 依田由基人 鶴村松一 石島子 明治書院 小林三三 秋元雅喜 富樫君代 阿波野青歌 大塚草苗 岡本差知子 堀川貞史 池田豊子 土居伸哉 野木剛生 小林

創刊号物語

「かつらぎ」創刊号の表紙は、選者だけが選ばない。やさしい毛筆書きの表紙の中央に「かつらぎ」と縦書きされている。もう一つ、印刷も美しい。「青歌」の二字の漢字も端々に副されている。

選者と投句者の「真剣勝負」の

「見よ、今日の俳誌の多くが随分と面白くなる。その中に在りて生ひ立たる「かつらぎ」と「青歌」の落着いた誰にもすわわさせられるべきに違いない。限りませぬけれども「青歌」はすでに盛衰をたはなれた。さすれば「かつらぎ」は、みずからを励ます方法であつたわけだ。



「かつらぎ」の創刊号の表紙

社団法人俳人協会第七回定時総会
日時 昭和五十三年一月十五日(午後二時三十分より)
場所 貿易センタービル三十九階チャペルルーム (国電浜松町駅下車)
なお総会に引き続いて、午後一時三十分より俳人協会賞、同人賞の授与式、午後四時より懇親パーティーを催します。
▽懇親会費(500円)予定
関係書類は追って送ります。

俳人協会 会員新春賀詞交換会
昨年度より実施しています賀詞交換会です。お出かけ下さい。
日時 昭和五十三年一月七日(土)午後二時~四時
場所 俳句文芸館(費無料)

「連句の集い」好評につき 継続開催
場所 俳句文芸館
日時 二月十日(土)三月十日(土)四月八日(土)
各回二時~午後一時より四時三十分まで。一月は休会です。
指導 阿波野青歌
会費 八百円

有働亨前中の俳句教室
午前中の講座をいよいよ希望に応えました。毎月一回です。
講師 有働亨 連絡課(八回)
会場 俳句文芸館 時間 午前十一時より正午
開講日 十月八日(土)より毎月第三日曜日 三月まで六回開講
申込先 俳人協会 連絡係

「俳句かるた三部作」
山口雪子監修 俳句文芸館編
「動物俳句かるた」 1,200円
「俳句かるた」 1,600円
「俳句かるた」 1,800円
山本健吉編「百人一句古今名句百選かるた」五、八〇〇円
発行 教育企画
俳人協会でもお取り扱いしています。

町春草書道教室
指導 町春草
会場 俳句文芸館
時間 午後一時三十分~四時
開講日 毎月第一日曜 毎月四回 受講料 六千円(十回) 一回(二五〇〇円)ほか教材費若干
申込先 俳人協会 書道教室係

「かつらぎ」の創刊号の表紙

「見よ、今日の俳誌の多くが随分と面白くなる。その中に在りて生ひ立たる「かつらぎ」と「青歌」の落着いた誰にもすわわさせられるべきに違いない。限りませぬけれども「青歌」はすでに盛衰をたはなれた。さすれば「かつらぎ」は、みずからを励ます方法であつたわけだ。

「かつらぎ」の創刊号の表紙

右の氏名をあげてみると、その師... 高橋隆生を筆頭に佐藤紅紅、川台... しかなんといつても、胸に迫... るのは、虚子が、その一弟子であ... ありがたい。協力をお願いする。(村山)

俳句のしるしと鑑賞

一月の句

山を見る一つ加へし齡もて

う偉大な山！それらに心を新たにして立ち対う。年頭所感といつた俳句では多分にそうした心象的なものを眼前の事物に託して詠うのも一つの手法で、この句は典型的である。「山」を虚実の間において解するのが正しいと思われ。

「山」のこの季節感について作者の言を記しておく。

昭和四十六年、数え年八十七の場合には眼前の山ではな... 歳を迎えての年頭時... 先生は毎年房州鴨川にて迎... 年、そのまゝ歳暮滞在されるの... が恒例となつてゐる。それを... とにこの句を鑑賞する。いわ... る。鴨川の裏山に出で、目... 心象的な山とは、例えば人生... 通りに連なる歌人長年経にゆ... 行路上色々な場面で行手に立... る姿が目に浮かぶのだが、鴨川山... 山といふ極め難い山、先師虚子と

雑誌を除き刊行

俳句文学館の蔵書目録

会報を発刊

俳句文学館では内部の整備とともない、このほど蔵書目録を刊行(雑誌を除く)頒布中である。一冊五百円、送料二〇円である。希望者は俳句文学館図書係まで申込まれたい。

山口誓子全集

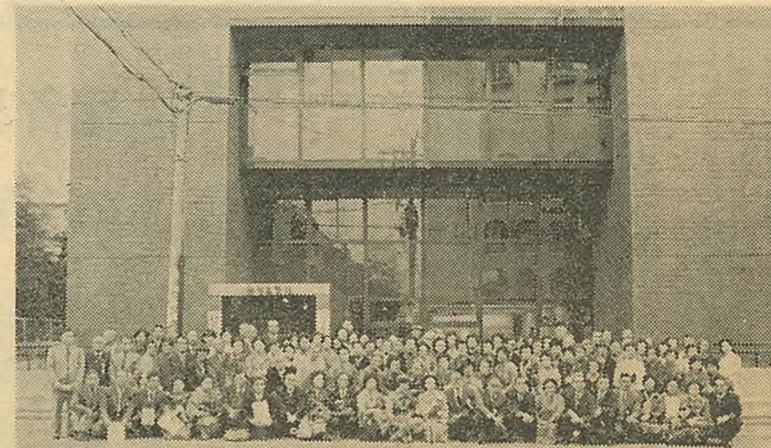
全十巻が完結

明治書院刊「山口誓子全集」全十巻はこのほど完結。昭和俳句史に記念すべき足跡を残した。山口誓子氏は去る十月十七日朝のNHKテレビに登場、近況を語った。

和歌山で今年 吟行会開く

関西支部委員会で決定

阿波野青野支部長をはじめ、東京の草間事務局長をまじえて各委員二十余名が出席、五十二年の関西支部行事を回顧するとともに、五十三年の行事を検討、大会、俳句講座のほかに懇親吟行会を和歌山で開催することを決定、臨時出席の嶋杏林子氏(和歌山)と打ち合わせを行なった。



俳句文学館のビルを背景に記念撮影の「菜穀火」同人

吉田、尾亀氏が常任委員に

関西支部

▽新任
吉田 草風(蘇鉄)
尾亀清四郎(雪解)

俳句文学館の年次予定

一月六日(金) 正月
七日(土) 賀詞交換会(午後二時~四時)
九日(月) 開館開始

黄正

文学館で講演会、遺墨展、箱根吟行会も

盛大に菜穀火創刊25周年・300号記念全国大会

俳誌「菜穀火」では、創刊二十五年を記念して、あわせて野見山朱鳥遺墨展も同日(三月三日)開館。五月十三日、東京・新宿の俳句文学館で開催した。全国から百四十余句と題する講演に始まり、秋松

俳句文学館へ寄贈

貴重な俳誌旧号

俳句文学館開設以来、各俳誌の旧号収集について、一方ならぬ努力をいたし、厚く御礼申し上げます。それぞれ誌名・号数を列記する。この紙面の都合上不可能であるが、とりあえず特別のご援助をいただいた各氏の芳名を掲げて深謝の意を表する。(順序不同同、敬称略)

- 藤田友作 庄中健吉 五月女
- 秋元不死男 市川月見 沢木欣一
- 黒田忠次郎 安住敏 川島志げ
- 岡本達知子 秋山花笠 宮井港
- 青 石原八束 草間時彦 龍野治
- 甲賀山村 巽屋子 中島双風
- 小谷野秀樹 桂信子 淡島一郎
- 岩田秀之助 古内吐 八田一郎
- 皆吉繁雨 角田三四三 吉川春
- 窪下聖舟 菊池麻風 堀橋人 浦
- 富安風生 清水冬生 樋口昌夫
- 勝一彦 小倉緑村 津久井理

編集室から

昭和五十二年正月号をおとす。俳句文学館も五十二年七月より月刊となり、まあまあ順調に刊行出来たのは、すべて読者の皆のおかげと厚く感謝したい。記事が中央に偏重しているというお叱りが一部あった。編集室としてはそれを否定するものではないが、ここで、地方の方の投稿を是非お願いしたい。長いもので、短いもので、それこそ一行か二行の短句でも差支ない。各地の俳壇の出来事などをお知らせ下されば、たいへん嬉しいことである。「俳句文学館」から年頭のお願である。

福岡懇親吟行会

日時 五十二年三月十二日(日)受付午前十一時より。開会午後一時。

吟行地 大宰府天満宮及び都府樓址一帯

会場 大宰府天満宮余香殿

参加費 五百円(当日受付で納入)

講師 北九州大学文学部教授河野頼人先生

懇親会 閉会後、簡単な懇親会を大宰府天満宮文華殿で催します。会費三千元。希望者は二月二十五日までに左へ会費同封の上御申込み下さい。

申込先 福岡県筑紫郡太宰府市白川九組(千八八〇一)福岡県筑紫郡太宰府市白川九組 TEL092-221-2603 中村 文平

札幌俳人協会 会員懇話会

とき 一月十九日(日)午後四時

ところ 札幌市中央区南十九条西三十三丁目西向ホテル札幌クラブ(市電文学部地下車十八番寄)

作品 自作作品(当日提出)

参加者 会費を申し渡す。会費三〇〇円

申込み 電話かきかき一月二十五日まで申込みのこと

申込先 札幌市中央区南八条西九丁目 藤本風雨 TEL011-511-8355 (註 案内状は特に送らないで)

岩手俳人協会 会員懇親俳句会

日時 昭和五十二年一月八日(日)午前十三時三十分(十時受付開始)

場所 盛岡市大沢川原三丁目二〇「こすかた会館」(岩手橋高校前)

句会一 当季雑詠(当日持参して下さい)
句会二 短冊交換会を行いますので、各自短冊(自筆のもの)一枚持参をお願いします。
懇親会 句会に引き継ぎ新年の懇親会(昼食含む)を行います。会費一八四〇〇円(懇親会費及び名簿印刷代等を含む)
連絡先 盛岡市八幡町二一十九原塚

季節の窓



高山 三之町雪景

国画会村上画伯と正月の高山。そしてこの高山の風景が見山に出掛けた。折も折、粉雪が事のクローキで描かれていた。数分後、画伯は「私も、雪、広角のレンズ、銀座の文藝画廊で個展を開く。を駆使してのデフォルメを試み」

(文・写真 岸田雅魚)